

2006 年度 小委員会活動成果報告

(2007 年 2 月 8 日作成)

小委員会名	水環境憲章小委員会		主 査 名：長尾良久 就任年月：2005 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (水環境運営委員会)		委員長名：加藤信介 主 査 名：浅野良晴
設 置 期 間	2005 年 4 月 ~ 2008 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・建物を中心とした水環境、給排水設備に関する基本となる考え方 ・水環境を展望した際の視点などを建築業務に携わる人たちに向けたわかりやすい文案を作成する。 		
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：無		
	<ul style="list-style-type: none"> ・浅野良晴(信州大学) ・小瀬博之(東洋大学) ・高地進(ピーエーシー環境モード) ・黒岩哲彦(アルキテクタ) ・加藤篤(日本トイレ協会) ・長尾良久(東陶機器) <p style="text-align: right;">計 6 名</p>		
設置 WG (WG 名：目的)	なし		
2006 年度予算	68,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：無	

項 目	自己評価
委員会開催数	9 回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	1. シンポジウム「水環境を考える」 (資料)同上 参加者 35 名
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. シンポジウムの開催と作成中の憲章案に対する意見収集 2. 上記結果を含め、憲章案の検討推進
委員会活動の問題点 ・課題	課題) 1. 完成後の情報発信方法の確定と予算確保

- * 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。
- * 環境本委員会傘下の小委員会においては、上記の活動成果報告書に加えて、以下の自己評価を記入すること。
- * 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

2006 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A	B	C	D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>シンポジウム「水環境を考える」の開催により、各水関連分野の現状の取り組みを参加者へ紹介できたこと。また、「水環境の形成に関する指針案」に対するご意見（検討すべき点等）を確認でき、案の検討に結び付けられた。</p> <p>参加者の評価概要は次のとおり</p> <p><シンポジウムにおける参加者の評価></p> <p>(1) 講演内容に対するアンケート調査結果</p> <p><理解度> 理解できた：15人/15人 あまり理解できなかった：0人</p> <p><役立度> 役立つ：15人/15人 あまり役立たない：0人</p> <p>意見)：水環境の重要性の再認識、地球温暖化等長期視点での検討の必要性が挙げられた。</p> <p>(2) 「建築内外における健全な水環境の形成に関する指針案」について 情報発信展開の要望 開発途上国の人材育成・技術支援を学会として推進してほしいなどの意見が挙げられた。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>			

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。